

平成22年度 学校経営の改革方針の最終評価表

川越高等学校

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
1 主 体 的 ・ 創 造 的 な 行 動	<p>(1) 学校行事における生徒の役割を増大させ、能動的行動の範囲を拡張する。</p> <p>(2) 時間を守らせる取り組みや提出物の期限を守ることを徹底する。</p> <p>(3) マナー向上の指導や制服の着こなしの指導を行い、正しい服装は礼儀正しさを意味することに気付かせる。また、担任室入り口に姿見を設置、自分で自分自身の身だしなみを確認させる。</p> <p>(4) 将来の進路実現のためのカリキュラムを充実するとともに、総合学習の時間を中心としてキャリア教育を充実する。特にインターンシップの具体的な計画について検討する。</p> <p>(5) 授業や総合学習での調べ学習について、授業者と連携して図書室を開放し、必要な資料を準備するなど生徒の自立学習を支援する。また図書館文化講座を開催し、生徒が広く文化を学ぶ機会をもうける。</p> <p>(6) 保護者と連携して基本的な生活習慣の確立をはかる。特に、朝の交通指導を各学期5～6回、年間15～18回実施して、交通ルール遵守の徹底を図る。</p> <p>(7) 保健委員による毎月の「保健便り」の発行や「保健室来室調査の統計」等の掲示物によ</p>	<p>(1) 学校見学会、合格者説明会等において、積極的に生徒の活動を増加させた</p> <p>(2) 個々の教科または担任で行っており、教科や学年全体の取組になっていない。</p> <p>(3) 鏡設置（達成）、確認（一部達成）</p> <p>(4) 総合学習は、本年度の計画通り進んだ。インターンシップでは調査に留まった。（未達成）</p> <p>(5) 修学旅行やリーディングマラソン、イベントなどで生徒の調べ学習の支援を行った。授業でも適宜図書室を開放した。図書館文化講座では、約40名の生徒が参加し、絵本の読み聞かせだけでなく人生について深く学ぶ機会を得た。</p> <p>(6) 7地点で、1学期6回、2学期7回、3学期4回、年間計17回実施。（達成）地域からの声（特に無灯火運転）については、学校全体の問題として捉え、全職員で対応。それにPTAのご理解・ご協力もあり、朝の交通指導同様、下校指導にもご協力いただき、10回の下校指導を行う事ができた。</p> <p>(7) 「保健便り」は予定どおり発行。（達成）自律的な健康管理や個別指導に関して概</p>	<p>(1) 増加はさせたが、自発的な行動にまでは至っていない。</p> <p>(2) 未提出であることのデメリットを生徒に徹底させることが必要である。</p> <p>(3) 意識の改善は見られたが、教室等職員室以外での指導の工夫が必要である。</p> <p>(4) 総合学習に多くの時間が取られるので、見直す必要がある。インターンシップでは、名工大では研究室訪問可、三重大工は不可など。</p> <p>(5) 文化講座については、生徒が参加しやすい内容等を工夫する必要がある。総合学習での調べ学習では、もう少し早い段階で学年と連絡を取り、資料等を準備する必要がある。</p> <p>(6) 生徒の交通ルール意識の低下により、地域の方や自動車運転者の方々にご迷惑をお掛けしている。数々の交通指導により、以前よりは改善されてきたが、まだ、無灯火・ヘッドフォン着用しての運転を見かける。来年度も登下校指導については、継続して行っていく必要がある。</p> <p>(7) 毎月保健便りを発行することにより、生徒一人ひとりの健康への関心を高めより一層</p>

	り、生徒の自律的な健康管理を図るとともに、来室回数が多い生徒には個別指導を行う。	ね達成できた。(達成)	の自律的な健康管理を図ることができた。今後も保健委員の活動を活発にする。
2 授業 改善 の 取 組	<p>(1) 外部での教科研修に積極的に参加し、その成果を各教科で共有、研究授業に活かすことにより、授業力の前提となる教科力を伸長させる。</p> <p>(2) 学年内で、教科間の情報交換を密にし、生徒の授業への取組状況や家庭学習時間の状況の把握に努める。授業を理解することで学習意欲を持たせる。</p> <p>(3) 公開授業(年2回)、研究授業を行い、教職員は互いに切磋琢磨して授業のレベルアップに励む。また、授業アンケートを行い、生徒の理解度を確認する。</p> <p>(4) IT教室、MM教室、視聴覚教室の活用、プロジェクタ等の情報機器の授業での活用を促進する。</p> <p>(5) 授業満足度を高めるために、必要に応じて授業に役立つ資料等を準備する。</p>	<p>(1) 長期休業中の予備校主催の教科研修(6名参加)を初めとして積極的な参加があり、授業に活かすことができたが、その成果を教科で共有するまでには至らなかった。(一部達成)</p> <p>(2) 週の学習時間の調査を行いデータの収集を行っている。</p> <p>(3) 授業公開は6月、11月の2回実施し、外部特に中学生とその保護者の参加があった。12月に全学年の授業アンケートを行った。校内研究授業は英語科は積極的に行われたが、他の教科は行われていない。</p> <p>(4) パーマネントにIT,MM教室、視聴覚教室は利用されている。 視聴覚教室が年間を通しておさえられている時間帯があり、うまく利用できない授業があった。</p> <p>(5) 各教科は進度や教材について綿密な打ち合わせが行われていた。</p>	<p>(1) 教科会で報告を行うなど、研修の成果を各教科で共有する必要がある。教科研究会(全国大会)への参加や、県外視察の予算確保が必要である。また、事後の教科内の共有(還元)が必要である。</p> <p>(2) まだ、データの使い方が不明である。今後、検討してゆく。</p> <p>(3) 6月は振り替え授業により土曜日に公開授業を行うことは、参加者も多く保護者からも評判がいいと思われる。授業アンケートは9月ごろに行い、2学期以降の授業に利用できるようにしたい。</p> <p>(4) 視聴覚教室の機器が老朽化して十分に使用できないので、交換する必要がある。来年度以降、授業が複雑になり視聴覚教室は利用回数が増える見込みである。社会科教室でもプロジェクターを利用した授業ができるようになると、もっと効果的な授業ができる可能性がある。</p> <p>(5) 来年度以降も週時間に各教科会を入れる必要がある。</p>
3 進 路	<p>(1) 教科指導の中で、該当教科を学ぶ意味とともに学びが生きる力の源となることを伝えられるよう努める。</p> <p>(2) 下校時間を守らせることに教員全員で取り組み、限られた時間に集中して部活動を行うとともに、学習時間の確保を図る。部活動</p>	<p>(1) 将来の職業の展望を教え、そのために必要なこと、自分の適性を考えさせている。</p> <p>(2) 下校時刻、クラブ別学習時間の調査に留まった。(未達成)</p>	<p>(1) 教師は授業の充実に勤め、そのことが生徒の学ぶ喜びになればと思う。</p> <p>(2) 「時間を大切にすること」を柱にして、各分掌で取り組む必要がある。</p>

指 導	<p>と勉強のバランスがとれるように生活確認ノートを活用するとともに、面談時に適切な指摘を行う。</p> <p>(3) 生活指導をベースにした進路指導、『進路プロジェクト』の利用を再確認する。また、これまでの取り組みを検証する。</p> <p>(4) 部活動に打ち込む土曜日の活動前後を効果的に活用するために、半日課外を設定するなどを検討する。</p> <p>(5) 2012年度センター試験の公民2014年導入の新カリキュラムの検討をする。</p> <p>(6) ホームページで、部活動の試合結果報告、進路の情報等を積極的に発信する。</p>	<p>(3) 取り組みに対して意見をいただくに留まった。(未達成)</p> <p>(4) 検討できず。(未達成)</p> <p>(5) 2012年度センター試験は対応済み。2014年度新カリキュラムも完成予定。</p> <p>(6) 試合結果の報告によりホームページを随時更新している。</p>	<p>(3) 各取り組みに対して「意味を確認する」ことが必要であることが分かった。</p> <p>(4) 土曜登校学習・チューターに対する調査を実施した。これを元に来年度見直し、工夫が必要である。</p> <p>(5) 2014年度の新カリキュラムは大学の発表待ちであり、柔軟に対応してゆかなければならない。</p> <p>(6) 教員全員で更新できる担当者が少ない。</p>
4 英 語 科 の 特 色	<p>(1) 英語科の進学実績、(大学卒業後の就職先等)や川越杯スピーチコンテスト、海外語学研修の状況や英語科の特色等を、学校案内、学校見学会、ホームページを通して、中学校の教職員や保護者、中学生に伝えていく。</p> <p>(2) 英語科の特色をだすために、プロジェクトチームを立ち上げるとともに、新カリキュラムの内容を再検討する。</p> <p>(3) 英語の多読指導や興味づけに役立つよう、English Books コーナーを充実させ、英語学習を支援する。</p>	<p>(1) 学校案内：わずかずつではあるが、過年度版の改訂を行いながら最新の情報を伝えている。 学校見学会：約1,000名の参加者を得、英語科の状況を伝えることができた。 英語科特別授業を積極的に公開し、メディアで紹介された。英語科の生徒による英語科紹介と海外語学研修の紹介を行った</p> <p>(2) カリキュラムの形が出来上がってきたが、県の上承をもらえるような内容のつめまではできていない。 英語科教員による他校視察を行った。</p> <p>(3) 英語の本については、すでに十分そろえてあるが、昨年に比べて貸し出し数が少なかった。</p>	<p>(1) 英語科の再編に伴い、抜本的な見直しが必要。英語科に特化した見学会の実施を検討するとともに、10月の見学会のあり方についての検討が必要。</p> <p>(2) 5月までに完成させる。</p> <p>(3) 英語科と連携して英語の多読指導をすすめるとともに、留学生用に日本文化紹介の英語の本をそろえたい。</p>
5 学 校 環 境	<p>(1) 清掃指導を徹底し、総務管理下の室内整備に努める。</p> <p>(2) 昇降口、廊下等に私物を置かず、机・ロッカーで管理するよう指導するとともに、ごみ</p>	<p>(1) 会議室の管理は概ね良好であったが、休憩室については、管理が手薄となった。 玄関での登校指導により私物をロッカーに置かないようにさせることができた。</p>	<p>(1) 総務部員の清掃、管理担当を明確にすることにより、各室の整備状況を向上させる必要がある。 ロッカー上の整理を向上させる必要があ</p>

境 衛 生 の 整 備	を出さない取り組みとして、長期休業中のごみ箱撤去の取り組みを続ける。	(2) 繰り返し注意することで概ね達成できた。	る。
	(3) 毎月の水質検査、年2回の安全点検による職場巡視による安全衛生委員会を開催する。	(3) 予定どおり達成することができた。(達成)	(3) 安全点検により危険箇所を改善した。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	(1) 進学指導をはじめ様々な取組についてきめ細やかな指導を行っている。 (2) 教員は献身的に生徒の指導を行っている。
弱 み	(1) 「目指す学校像」と「ありたい姿」の達成状況を確認するため、学校が特に重視している取組が明確になっていない。 (2) アンケートは多くとっているがその結果を十分に生かし切れていない。 (3) 様々な取組の目標と指標が明確になっていない。また、計画が明確になっていないものもある。 (4) 登下校の交通マナーに関するクレームが多くある。

(3) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
(1) 次年度の改革方針の策定時には学校として重点的に取り組む行動計画を明確に設定する。 (2) 今年度に立ち上げた学校経営品質のプロジェクトチームを来年度は年度当初から委員会として立ち上げる。 (3) 授業力向上に係る計画を年度当初に各教科で策定する。 (4) 英語科の活性化策の実現に向け学校全体で取り組んでいく。